



2004年1月25日(日)「官ノ倉山ハイキング」に出かけました。場所は、埼玉県小川町と東秩父村の境。八王子駅から八高線で高麗川駅へ。ここでディーゼル列車の八高線に乗り換えて五つ目の駅竹沢から歩き始めました。駅前には何もなくてとてもどかです。途中の天王池は一面氷が張っていて、こんな氷った池を見るのは何年ぶり？官ノ倉山からの眺めも、隣の石尊山からの眺めもすばらしいものでした。そして、小川町駅を目指して下山します。

小川町は、小京都と呼ばれる町で、和紙が有名です。和紙を漉くためには、きれいな水が必要で、その水は秩父山地から流れでる清水を利用しているのです。清水が豊富な場所は酒造家も多く、うなぎもうまい。晴雲酒造に立ち寄り、仕込水でのどを潤し、お酒も少々。駅前には女郎うなぎの“福助”と忠七めしで有名な“二葉本店”がありましたが、今回はパス。ハイキングに出かけたのは、小野勝彦さん、桜井利子さん、町田行弘の“傍から見たら親子(?)”3名です。



交通事故で車大破

朝 9 時、JR 八王子駅横浜線ホームに集合したのは、小野さん、桜井さん、町田の 3 名でした。この父・母・子のハイキングは一昨年 6 月の「高畑山・倉岳山ハイキング」以来です。その前はさらに 2 年前、2000 年 6 月の「大岳山ハイキング」の時がそうでした。

八高線ホームに移動して 9 時 25 分の高麗川行き電車に乗ります。車内の話題は、桜井さんの五十肩の治療方法について。桜井さんはここ 2 年ほど五十肩に悩まされているそうです。医者や薬に詳しい小野さんがいろいろとアドバイスします。そして、桜井さんの交通事故。昨年、町田市のリサイクルセンターで息子さんが交通事故に遭って、しばらくして今度は桜井さんが交通事故に。雨の日の夜、車の運転中、正面から傘をさして乗っている自転車避けるため右車線にはみ出しました。その時、対向車のヘッドライトに過剰反応して左へハンドルを切りすぎて歩道との境に立つポールに衝突。ポールが 45°倒れたところに乗り上げて車は真っ逆さまにひっくり返ってしまったのです。車は全損してしまいましたが、桜井さんはほとんどケガなしですんだというのです。無事で何より。

曲がり角を間違えて

高麗川駅でディーゼル列車の高崎行きに乗り換えます。小川町駅の次、竹沢駅で降ります。小さな田舎の駅で、無人駅ではありませんでしたが、狭い待合室の中には本棚が置かれていて、文庫本がぎっしり並んでいました。駅周辺には何もなく、国道 254 号線が走るのみ。この国道を左方向に歩き始めます。東武竹沢駅からの道と交差したら右折するのですが、ここを見逃してしまい、おかしいなぁと感じつつ国道を歩きました。この時の話題は年金と生命保険。騙されたような気がするものの、いざ、そんな歳を迎えると……。道を探ねようにも何もなくて、ようやく見つけた小さな食堂で確認します。やはり、きすぎていま



した。すなおいに戻り、ガイドブックのコースを見つけて歩きます。

国道を曲がると、昔からの生活が窺えるような“むかし道”でした。お墓の話題で、「お墓なんかいらぬ。山にまいてくれれば充分」「法律的に問題はないのかなあ」調べてみる必要があるな」

散骨

インターネットで調べてみました。

遺骨を細かく砕いて骨灰とし、その遺灰を海や空中に撒く事を散骨と言います。法的には「墓地、埋葬に関する法律（墓刑法）」があります。昭和 23 年に出来た法律で、敗戦直後の混乱の中で、安易な土葬による伝染病などの広がりを避けるために、土葬あるいは火葬後の遺骨を墳墓などの納骨場所に埋蔵、収蔵することについて規定したものです。遺灰を海や山に撒く自然葬は想定していませんが、散骨するための特別の許可や届け出は必要ありません。ただし、火葬許可証と埋葬許可証（埋・火葬許可証）は必要です。

また平成 3 年、東京の市民団体「葬送の自由をすすめる会」が、神奈川県沖で散骨を行いました。

これに対して法務省は、「節度を持って葬法の一つとして行われる限り問題ではない」旨の見解を出し、散骨を法的に否定はしませんでした。これ以降、散骨は一つの葬法として認知されつつあります。

節度をもって行うと言うことは、遺骨を単純に山や海に撒くのではなく、遺骨を紛状（2 - 3 ミリ程度）の遺灰にして、山であれば、撒く地域の人々の感情を考慮し、地主の了承を得てから行い、海であれば、漁場、海上交通の要所を避けて、陸地より 20 km 以上離れた沖合で厳粛に挙行するべきだと考えられます。





ここが山頂？

三光神社を通り過ぎ、分岐点を左に入り、少し上ると天王池に着きました。池は全面氷っています。時刻は12時。東屋があり、女性ハイカー3名が昼食を始めました。山へはこれから登るそうです。一瞬迷いましたが、昼食は山頂でということにして出発します。

ここからが本格的な山道になります。狭く薄暗い杉林の中を上ります。15分も歩くと汗ばんできます。先を急ぐこともなく、暑さを我慢することもなく、一休みして上着を脱いで体温調節することにしましょう。山頂で上着を着るほうが賢明です。



再び歩き始めて5分もすると、上りが終わり広場に出ました。ベンチがあったりして「えっ、ここが山頂？」直進するハイキングコースもあり、それらしき雰囲気なのですが、ガイドブックの山頂の写真とあまりに違うのです。近くの標識をよく見ると、左方向を指して“官ノ倉山山頂”となっています。表示に従って歩きます。途中で老夫婦のハイカーとすれ違います。「最後の岩場が大変ですよ」と奥さん。なるほど、少々急な岩場がありました。確かにあの老夫婦にとっては難所だろうなあ、特に下りとなると。小野さんも桜井さんも健脚ですから、この岩場を難なく上り切り山頂に到着です。



スリリングな小野さんの会話

山頂到着は12時40分。見晴らしのよい山頂は、少年野球チームのハイキング、ファミリーハイキングで大賑わい。みんな食事を終えて下山するところです。食事を終えた家族のテーブルを譲ってもらうように腰をおろします。お母さんは熱心にお化粧直し中。「山に来てもお化粧なんですね」「髪は染めているんですか」「歯は入れ歯ですか」小野さんの鋭いジョークをすりとかわしつつ、「小川町の温泉でまたお会いしましょう」ということは混浴を探さなきゃ」二人の会話はまさに漫才。みんなで大笑いでした。



みなさん下山したのどかな山頂でお湯を沸かし(町田は久しぶりにガスを持参)カップラーメンで暖まり、コーヒーを楽しみました。山頂での話題は、生活費。この3名でハイキング来ると、桜井さんの贅沢(?)を小野さんと町田がたしなめるのです。この時、山頂には、若いお父さんと3歳という男の子がいました。「よく上って来たねえ」機嫌がいいと大丈夫なのですが、疲れたらおんぶですよ」彼らも下山します。記念撮影をして私たちも出発です。13時40分でした。



桜井さんがデジカメ

5分下って5分上って、石尊山に着きます。祠の置かれたこの山頂もスッキリしていて気持ちよく眺めも素晴らしいものです。桜井さんは、息子さんに買ってもらったデジタルカメラを取り出してシャッターを押します。桜井さんも携帯電話、デジタルカメラときたか！



石尊山からの下りはちょっと急な岩場でしたが、立ち止まって下を確認するほどの怖さはありません。もちろん、足元をしっかり確認しながら下りて行きます。岩場を約5分でクリアすると、少々狭い林道のような歩きやすい道になります。左を流れる沢の音を聞きながら15分で“北向不動”到着。北向不動は、右側の古い石段の上にあるようです。「せっかくだから行ってみましょう」今にも崩れ落ちそうな石段を上りきると小さな祠があるだけでした。



発車しないで！

ここで山道は終わり、平坦な“ふるさと歩道”に変わります。見通しのよい場所で400メートルほど先に山頂で出合った親子を発見。3歳の男の子はお父さんの背中にいました。思わず微笑んでしまいました。ガイドブックと標識に従い、“長福寺”“八幡神社”と辿り、“晴雲酒造”に到着しました。中に入り、仕込水で喉を潤します。せっかくなので(?)町田は、カップ酒を購入して味見。ここから小川町駅までは10分。15時50分に到着したものの高麗川行きの列車は15時52分。しかも次は16時56分。町田は、列車に走り込み、ドアから身を乗り出して小野さんと桜井さんが乗るまで、列車を止めます。なんとか間に合っ(実際2分遅れくらい)帰路に就きました。改札からホームまで走った町田は、酒がまわり、車内の温度も手伝ってまっ赤な顔のまま八王子へ。





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
桜井利子	194-0001	東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591

